

令和2年度収支予算

1. 令和2年度の予算編成方針

日本山岳会は、ここ数年、会費収入の減少によって経常的な赤字となり、赤字解消のために様々な施策を実行してきた。平成29年度以降はわずかながら黒字へ転換したものの、その後も会員減少に歯止めがかからず、他の収益も伸び悩んでいる。現状では、令和元年度決算は若干の赤字となるものと予想している。

令和2年度予算において、会員数推移は横ばいの想定で会費収入は前年を維持する。寄附金については、昨今の経済情勢を鑑みると非常に厳しいものがあるが、本会の120周年記念事業や事業活動の原資がいつにも増して必要な時期であることから寄附金募集には会を挙げて注力しなければならない。

一方、費用は各委員会における新たな事業活動への取り組みが活発になり予算請求は膨らんだが、個別の活動内容を検討し、委員会査定額は前年度予算額以下になるよう切り詰めている。これに加えて当年度より120周年記念事業のプロジェクト活動が本格的に開始し、活動収支の不足分4,500千円(純額)を本部助成金として負担する見込みである。

その結果、当期経常増減額は788千円と若干の黒字となった。トータルの当期一般正味財産増減額は788千円となる見込みである。

今後も、会員数の増加策と寄附金募集拡大を基本とする収益改善策を強力に推し進めるとともに、適切な費用削減の知恵を絞り継続的な収支の改善に努めなければならない。

2. 経常収益

会費収入54,000千円、入会金収入4,000千円のほか、事業収益を12,780千円見込んでいる。受取寄附金は、今年度から本格化する120周年記念事業の原資として継続的に募集を行い、また、将来の事業拡充等のために永年会員からのご寄付もあらためてお願いすることとし、前年度比7,020千円増の27,620千円を計上する。その他、120周年記念事業の個人負担金等を含む雑収入が10,322千円と見込んでいる。これらにより経常収益は前年度より14,492千円増加の111,537千円となる。

会費収入、入会金収入に関しては、YOUTH CLUBでの活動強化、委員会・支部での登山教室の開催等の魅力あるサービスやクラブ活動を増やすことで新入会員の獲得につなげるようこれまでも増して注力しなければならない。

また、120周年記念事業では今後様々なプロジェクトを準備しているが、その財源は現時点では大幅に不足している。これに対し、本会が紺綬褒章の授与申請団体となったことで、より一層寄附金を受ける環境が整うこととなった。これを活用して組織的かつ大規模な寄附金募集を行い、必要な事業活動を実現できるよう最大の努力をすることが必須である。

3. 経常費用

(1) 事業費

主な事業費として、出版事業費として12,160千円、支部事業費に19,108千円、山岳研究事業費に8,979千円を計上する。出版事業費に関しては前年度と同額を計上している。支部事業費については、本部からの特別助成金は前年同額の1,000千円を計上しているが、前年度に全国各支部における周年事業等が多かった反動から支部事業費全体では2,220千円の減少となっている。山岳研究事業費は上高地山岳研究所の維持費用であるが、前年度中に長期的な修繕計画を策定し、これに基づき当年度は1,719千円の増加となった。一方、利用料金の見直しを行ったことから、利用者数の増加により採算が改善するものと期待している。

このほか、高尾の森づくり事業では今年 20 周年記念式典費用を含む 5,270 千円を計上する。ユースクラブ事業については若年層の活性化のための諸施策を継続実施しており当年度は 2,000 千円を計上する。

本会は令和 7 年(2025 年)に設立 120 周年を迎える。これに伴い令和元年度に 120 周年記念事業委員会を設け、令和 2 年度からの 5 年間に実施する記念事業の内容を検討してきた。令和 2 年度においては下記の 5 つのプロジェクトを実施することを決定し、予算を計上することとした。それぞれのプロジェクトの当年度収支は以下のとおりである(差額は本部助成金で精算予定)。

(単位:千円)

	ヒマラヤキャンプ	山の天気ライブ事業	エベレスト登頂50周年記念フォーラム	グレート・ヒマラヤ・トラバース	日本・エクアドル合同登山	合計
(経常収益)						
寄附金・助成金	2,000		500	1,000		3,500
参加者負担金等	2,100	395		3,000	2,300	7,795
計	4,100	395	500	4,000	2,300	11,295
(経常費用)						
活動費用	5,600	895	1,000	5,000	3,300	15,795
当期経常増減額	△ 1,500	△ 500	△ 500	△ 1,000	△ 1,000	△ 4,500

この結果、事業費は昨年度に比べ総額で 16,881 千円増加し、106,149 千円となる見込みである。

(2) 事業管理費と管理費

事業管理費として 20,615 千円、管理費として、4,600 千円を見込んでいる。事業管理費の内訳は、3 つの公益事業と共益事業に配分した、職員の給料手当と福利厚生費及び支払手数料などで事業費の一部を構成する。管理費は、主に本部事務所の管理に係る費用であり、経費の節減などにより費用の圧縮を図ることとする。(1)と(2)を合計した経常費用は、前年度比 16,881 千円増加し 110,749 千円となる。

以上の結果、経常損益(当期経常増減額)及び当期一般正味財産増減額は 788 千円とほぼ収支均衡の状態となる見込みである。

4. 資金調達及び設備投資の見込み

令和 2 年度における資金調達及び多額の設備投資の見込みはない。

以上

令和2年度収支予算書(対前年比較)

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	令和2年度 予算	平成31年度 予算	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	5	5	0
特定資産運用益	10	10	0
受取入会金	4,000	4,000	0
受取会費収入	54,000	54,100	△ 100
受取準会員入会金	500	500	0
受取準会員会費	1,500	1,200	300
事業収益	12,780	12,660	120
受取補助金等	800	1,550	△ 750
受取寄附金等	27,620	20,600	7,020
雑収益	10,322	2,420	7,902
経常収益計	111,537	97,045	14,492
(2) 経常費用			0
事業費	106,149	89,268	16,881
出版事業費	12,160	12,160	0
図書管理事業費	6,170	5,900	270
調査研究事業費	1,870	2,261	△ 391
指導研究事業費	460	307	153
山岳環境保全事業費	670	490	180
支部事業費	19,108	21,328	△ 2,220
高尾の森づくり事業費	5,270	3,700	1,570
ユースクラブ事業費	2,000	2,500	△ 500
海外事業費	150	100	50
海外登山助成金	500	500	0
JAC登山隊助成金	600	0	600
山岳研究事業費	8,979	7,260	1,719
ミニ水力発電事業費	200	222	△ 22
家族登山普及事業費	325	240	85
120周年記念事業費	15,795	0	15,795
その他事業費	11,277	11,300	△ 23
事業管理費	20,615	21,000	△ 385
管理費	4,600	4,600	0
経常費用計	110,749	93,868	16,881
当期経常増減額	788	3,177	△ 2,389
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益(120周年寄附など)	0	0	0
(2) 経常外費用(120周年記念事業)	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	788	3,177	△ 2,389

